



市民医療フォーラム2012（会長挨拶）

会長 山 光 進

皆様、こんにちは。只今、ご紹介いただきました山光です。

今年で9回目を迎えました、「市民医療フォーラム」に、この様に多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。

只今、司会の橋本さんからご紹介がありましたが、この度、予定にありました第1部の小倉智昭氏の基調講演につきましては、私どもの不手際により内容を変更させて頂きました。皆様方には心からお詫び申し上げますとともに、私が基調講演を一生懸命務めさせていただきますので、宜しく願いいたします。

なお、第2部の3名の専門の先生方による「パネルディスカッション」は予定通りでありますので、専門の先生方のお話をお聞きし、明日からの生活に役立てていただきたいと思います。

この機会に、皆様方に、日頃、私が感じていることを少し述べさせていただきます。

私は、札幌市医師会の会長としても、一人の医師としても、患者さんが安心して医療機関にかかれるようにしたいし、高齢者が先行きを安心して暮らせるようにしたい。

また良質の医療を「いつでも・どこでも・だれもが」受けることができるようにしたい、との思いで医師会活動を行っております。しかし最近、「お金が足りなくて医療機関を受診出来ない」という方が非常に多く、この状況には悲しみと怒りを感じております。本日、皆様方にお渡ししたボールペンにも記載されておりますが、札幌市医師会は患者さんの自己負担額や負担限度額を引き下げ、病める人が安心・安全に医療を受けることが出来る社会にすることが必要です。そのために、私たちは日本医師会を通



山光 進 会長

じ、また地元の国会議員を通じて、日々政府に働きかけております。

世界一の長寿国を作り、高い評価を受けている日本の医療制度を、将来にわたって守り発展させて行くことが私たちの使命であり、皆様方が日常の生活を安全安心に送ることができることが、私たちの願いであります。

そのためにも、あらゆる機会を通じて、皆様方と、共に語り共に考え、お教えいただき、そして行動していく姿勢で、今後とも一生懸命取り組んで参りますので、是非、医師会活動にご理解を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

終わりに、この市民医療フォーラムでは、毎回手話を札幌聴力障害者協会様に、要約筆記を「ふきのとう」様に、ボランティアとして御協力頂いております。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

それでは、皆様お楽しみください。本日は、ご参加いただき、ありがとうございました。

「市民医療フォーラム2012」報告

地域社会部長 笹本洋一

平成24年11月10日（土）午後1時から、札幌市民ホールにて「市民医療フォーラム2012」を開催いたしましたので、その概要について報告します。

このフォーラムは、札幌市医師会と札幌市の共催により、札幌市民のニーズに沿った健康と医療をテーマに、障害者を含めた多くの市民に参加していただこうと、平成16年から開催され今年で9回目となりました。札幌聴力障害者協会の協力で手話による舞台上での同時通訳と、札幌身体障害者福祉協会「ふきのとう」の協力で、文章による要約筆記のスクリーン拡大表示を行っています。事前申し込みの段階で、今回の基調講演に小倉智昭氏の講演を予定していましたが、主催者側の都合により、演者並びに内容を変更して行うこととなりました。当日は好天に恵まれ、会場には960名の市民の方々に御越しいただきました。

開会にあたり、札幌市医師会を代表して山光進会長、札幌市を代表して渡部正行副市長が挨拶されました。

今回のメインテーマは、「病気とともに生きる～大切なのは医療と家族の支え～」です。第1部の基調講演は札幌市医師会会長の山光進先生に、第2部の健康トーク&パネルディスカッションには3名の先生方に、それぞれ講演をお願いしました。

第1部の山光先生は「病気とともに生きる」と題して、医師としての多くの患者さんと接してきた経験をお話しされました。医師として患者さんに身体的、精神的、全人的治療が必要であることはもちろんだが、患者さん本人だけでなく、患者さんの家族や、その家族にそれぞれの物語があることを忘れてはいけないと、話さ



渡部 正行 札幌市副市長



第1部基調講演：山光 進 会長





第2部健康トーク：丸山 淳士 先生

れました。進行した膀胱がんの患者さんに抗がん剤治療を行い、本人からは仕事を家族に引継ぎできる時間ができた、奥さんからは病気の本人を中心に家族が集まれた、と感謝されたそうです。自分の夢は進行がんの患者さんを何とかして長生きさせることであると、京都のお坊さんの書いた「夢」の書を見せてお話しされました。病気は人生の一部であり、治らなくても人生に調和した治療もある。患者さんにはそれぞれ家族があり、家族にはそれぞれ物語と生活がある。家族の誰かの異変はその家族全体に影響を及ぼし、家族の接し方によって患者さんの精神状態も病状も大きな影響を受ける。自分と相手との関係が大事であり、それぞれの存在を認めて、お互いにつながっているという気持ちがあれば、病気を持っていても楽しい人生を送れると、まとめられました。

第2部では、3名の専門医による健康トーク&パネルディスカッションを行いました。

始めに、五輪橋産科婦人科小児科病院の丸山淳士先生が、「人も病気も見かけ通り」と題してお話しされました。ほとんどの病気は早く見つければ、完治する。手遅れになると本人も家族も大変である。毒キノコのスライドを示し、見分けるのは難しいが見分けることが大事である。他の人から指摘されないと自分の病気はわからないので、奥様の存在が重要である。体の外側と内側（器官）に現れることを対比させて、器官の病気を治して心の問題を癒すこと、ストレスと器官、体と心は一体となって反応す



第2部健康トーク：坂牧 純夫 先生

ること、感情と健康、などを説明しました。見かけを治すことで中身を治すこともできる、見かけを治すと体も治る、体を変えると心も変わると、まとめられました。

続いて、北央病院院長の坂牧純夫先生が「がんとともに生きる」について講演されました。日本のがんの動向について、昭和22年の4倍くらいに増加していて高齢者ほど多い。がんの罹患率、死亡率は40歳から増え始め65歳から急増している。1990年頃から、がんになる人は増えているが死亡率は減っていて、特に男女とも胃がん、肝臓がんは減っている。がんにならないために、発がん予防が重要で、肝細胞がんや胃がん、子宮頸がんは感染が原因なので、禁煙と感染予防で男性は50%、女性は25%のがんを予防できる。もし進行がんになったら標準治療を受けるのが一般的だが、その後も継続が必要で、終末期まで継続するべきである。そのために家族と医療に携わる人の協力が必要である。まとめに本居宣長の「気は養うもので補うものではない」とお話しされました。

最後に、おおにし内科・リウマチ科クリニック院長の大西勝憲先生が「関節リウマチとともに生きる～関節の痛みをかかえながら～」について講演されました。物語風にスライドをすすめて、二人の異なる環境の女性の関節リウマチの説明をされ、関節リウマチの治療は進歩していること、日本ではすぐに専門医に診てもらえることをお話しされました。治療の進歩により、これまで関節症状の緩和しかできなかったこと



第2部健康トーク：大西 勝憲 先生

が、症状の消失が可能となり、最近は関節の破壊の遅延、改善ができるようになってきたこと、早期リウマチは完治することができることと話されました。最後に、関節リウマチだけでなく普段の関節の痛みをとるために、椅子に座ったままの運動をご自分で実演されご指導いただきました。

パネルディスカッションでは司会の橋本登代子さんがコーディネーターとなり、3名の先生がパネラーとして出席されました。坂牧先生が全人的苦痛を示したスライドを参考に、身体的苦痛、心理的・精神的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛について説明されました。丸山先生は、人は他の人のために生きていて、自分に備わっている力の9割は他の人のためにある。悪魔、善魔という言葉があり、善魔は悪気が無いので歯止めがない、余計なことはしないでそばにいてだけでいいと、話されました。大西先生は、話をよく聴くことが重要で、そのうえ同意することが大事である。誰でも頭の中に解決方法があり、それを引き出すことが肝心であると続けました。坂牧先生は、チャプレンという聴くだけの職種について紹介されました。最後に、大西



第2部：パネルディスカッション

先生は、「病気は誰でもなる、早く自分に勇気を与える相手を見つけることが必要」、坂牧先生は、「患者さんに寄り添う医療が必要」、丸山先生は「昭和天皇のように最後まで話を聞いてから質問する、答えるのが一番良い」とまとめて、フォーラムを終了しました。

市民医療フォーラムでは、参加された市民の方にアンケート調査を行っております。今回は708名の方に回答いただき、回答率は73.8%でした。性別では女性が62.7%、男性が35.3%でした。年代別では、60歳代が最も多く、全体の40%を占めていました。内容については、大変良いが47.2%、良いが39.4%で、併せて86.6%の方が良いと回答していました。「基調講演講師が変更になって残念でした」というご意見もありましたが、「四人四様の素晴らしい内容だった」など、大変好評な意見も多数いただきました。今後のテーマとしては、がんや糖尿病、認知症などの希望が寄せられました。これらを踏まえ、来年度もさらに多くの市民の方々に参加いただけるような企画を検討したいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。